

第 67 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：‘伝える’を学ぶ—

11月の研修会は、11月28日に行われる谷戸山公園まつりで実施予定の市民参加型プログラムのシミュレーション等を通して「伝える技術」を学ぶ研修を行いました。



暖かい日が続いたので、谷戸山公園の
田んぼでも二番穂が育っていました。
これからの時期、鳥などの餌になりそうです。



まずは講師からの説明を受け、いよいよ今月末
に迫ったイベントの企画をつめていきます。



イベント当日は、こちらのボードで企画
内容や研修会の活動を紹介します。
企画ごとに3つの班で資料を作成します。



午前中は班ごとに分かれて、それぞれの企画の打ち合わせをしました。
参加者に楽しんでもらうのはもちろん、私たちの行う管理作業の意味や、
必要性についても理解してもらえよう、しっかり“伝える”ために考えます。



必要となる道具の確認もしました。



午後は、それぞれの企画をシミュレーション
します。まずはボードを使ってお客さんを
受付ブースに呼び込むところからです。



受付ブースでも、お客さんに
体験してもらえる企画を考えました。



ブースからプログラムを実施する場所へ移動
する間、お客さんに公園の成り立ちから、
公園で暮らす生きものと私たちの管理
作業の関係などを解説します。



湿生生態園のヨシ藪で、チツと鳴く
アオジの声が聞こえてきました。



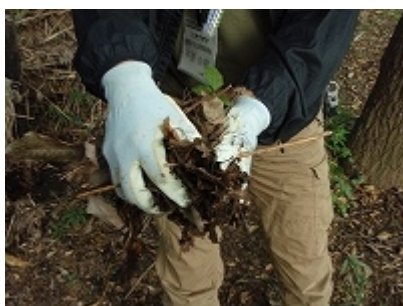
どんぐりから里山の生態系を伝えるこちらの班。どんぐりの実る木は、シラカシなどの常緑樹、
コナラなどの落葉樹と様々です。それぞれ種の生き残るための戦略や、好む環境などを
解説していました。



樹林管理地で間伐の必要性和間伐材の利用を伝えるこちらの班。管理の手が入らなくなって
放置された暗い森と、管理地との違いなどを感じてもらいます。刃物の使い方など注意が
必要ですが、減多にできない間伐の体験は楽しんでもらえるのではないのでしょうか。



最後にカントリーヘッジ横で、
土壌生物の観察を体験しました。



落ち葉や、その下の分解が進んでいる部分を取り、ビニールの上にひろげます。
正確な種の同定は難しいですが、ムカデ、ミミズ、陸貝など、たくさんの生きものが見つかりました。



土壌生物がいるからこそ成り立つ里山の
環境を、参加者に楽しみながら理解して
もらえるよう解説します。



最後に、当日までにまとめておくことや、
用意するものなどを確認し、
今回の研修会は終了です。



今回の研修会で出会った生きものです。左から、水鳥の池で休む冬鳥のマガモ、
湿生生態園の横で見つけたオオカマキリの卵のう、暖かい陽だまりで羽を広げるルリシジミです。

12月の現場研修会からは、通常の研修会に戻ります。樹林環境をフィールドとした研修になります。現場でビオトープが学べる絶好の機会ですので、まだ参加されたことのない方も是非一度ご参加ください！